



## 基本設定

この章では、ASA上でコンフィギュレーションを機能させるために通常必要な基本設定を行う方法について説明します。

- [ホスト名、ドメイン名、およびイネーブルパスワードと Telnet パスワードの設定 \(1 ページ\)](#)
- [日時の設定 \(3 ページ\)](#)
- [マスターパスフレーズの設定 \(6 ページ\)](#)
- [DNS サーバの設定 \(8 ページ\)](#)
- [ハードウェア バイパスおよびデュアル電源 \(Cisco ISA 3000\) の設定 \(11 ページ\)](#)
- [ASP \(高速セキュリティ パス\) のパフォーマンスと動作の調整 \(13 ページ\)](#)
- [DNS キャッシュのモニタリング \(15 ページ\)](#)
- [基本設定の履歴 \(16 ページ\)](#)

## ホスト名、ドメイン名、およびイネーブルパスワードと Telnet パスワードの設定

ホスト名、ドメイン名、イネーブルパスワード、Telnet パスワードを設定するには、次の手順を実行します。

### 始める前に

ホスト名、ドメイン名、イネーブルパスワード、Telnet パスワードを設定する前に、次の要件を確認します。

- マルチ コンテキスト モードでは、コンテキスト実行スペースとシステム実行スペースの両方のホスト名とドメイン名を設定できます。
- イネーブルパスワードと Telnet パスワードは、各コンテキストで設定します。システムでは使用できません。マルチ コンテキスト モードのスイッチから ASASM へのセッションを実行する場合、ASASM は管理コンテキストで設定したログインパスワードを使用します。

- システム コンフィギュレーションからコンテキスト コンフィギュレーションに切り替えるには、[Configuration]>[Device List] ペインで、アクティブなデバイスの IP アドレスの下にあるコンテキスト名をダブルクリックします。

## 手順

**ステップ 1** [Configuration] > [Device Setup] > [Device Name/Password] を選択します。

**ステップ 2** ホスト名を入力します。デフォルトのホスト名は「ciscoasa」です。

ホスト名はコマンドラインのプロンプトに表示されます。このホスト名によって、複数のデバイスとのセッションを確立する場合に、コマンドを入力する場所が常に把握できます。ホスト名は syslog メッセージでも使用されます。

マルチ コンテキスト モードでは、システム実行スペースに設定したホスト名がすべてのコンテキストのコマンドラインプロンプトに表示されます。コンテキストで設定したホスト名を、コマンドラインに表示せず、バナーに表示するオプションもあります。

**ステップ 3** ドメイン名を入力します。デフォルト ドメイン名は default.domain.invalid です。

ASA は、修飾子を持たない名前のサフィックスとして、ドメイン名を追加します。たとえば、ドメイン名を「example.com」に設定し、syslog サーバとして非修飾名「jupiter」を指定した場合は、ASA によって名前が修飾されて「jupiter.example.com」となります。

**ステップ 4** 特権モード（イネーブル）パスワードを変更します。デフォルトのパスワードは空白ですが、

enable 認証を設定しない場合、イネーブルパスワードによって特権 EXEC モードが開始されます。HTTP 認証を設定しない場合、イネーブルパスワードによって空のユーザ名で ASDM にログインできます。

- a) [Change the privileged mode password] チェックボックスをオンにします。
- b) 新しいパスワードを入力し、新しいパスワードを確認します。最大 から 127 文字のパスワードを設定します。大文字と小文字が区別されます。スペースと疑問符を除く任意の ASCII 印刷可能文字（文字コード 32 ～ 126）を組み合わせることができます。

**ステップ 5** Telnet アクセスのためのログインパスワードを設定します。デフォルトのパスワードはありません。

Telnet 認証を設定しない場合、ログインパスワードは Telnet アクセスに使用されます。session コマンドを使用してスイッチから ASDM にアクセスする場合にも、このパスワードを使用します。

- a) [Change the password to access the console of the security appliance] チェックボックスをオンにします。
- b) 古いパスワード（新しい ASA の場合はこのフィールドを空白にしておきます）、新しいパスワードを入力し、新しいパスワードを確認します。パスワードには最大 16 文字の長さを使用できます。スペースと疑問符を除く任意の ASCII 印刷可能文字（文字コード 32 ～ 126）を組み合わせることができます。

ステップ6 [Apply] をクリックして変更内容を保存します。

## 日時の設定



(注) ASASM または Firepower 2100、4100、または 9300 の日時を設定しないでください。ASA は シャーシから日時の設定を受信します。

## NTP サーバを使用した日付と時刻の設定

NTP を利用して階層的なサーバシステムを実現し、ネットワーク システム間の時刻を正確に同期します。このような精度は、CRL の検証など正確なタイム スタンプを含む場合など、時刻が重要な操作で必要になります。複数の NTP サーバを設定できます。ASA は、データ信頼度の尺度となる一番下のストラタムのサーバを選択します。

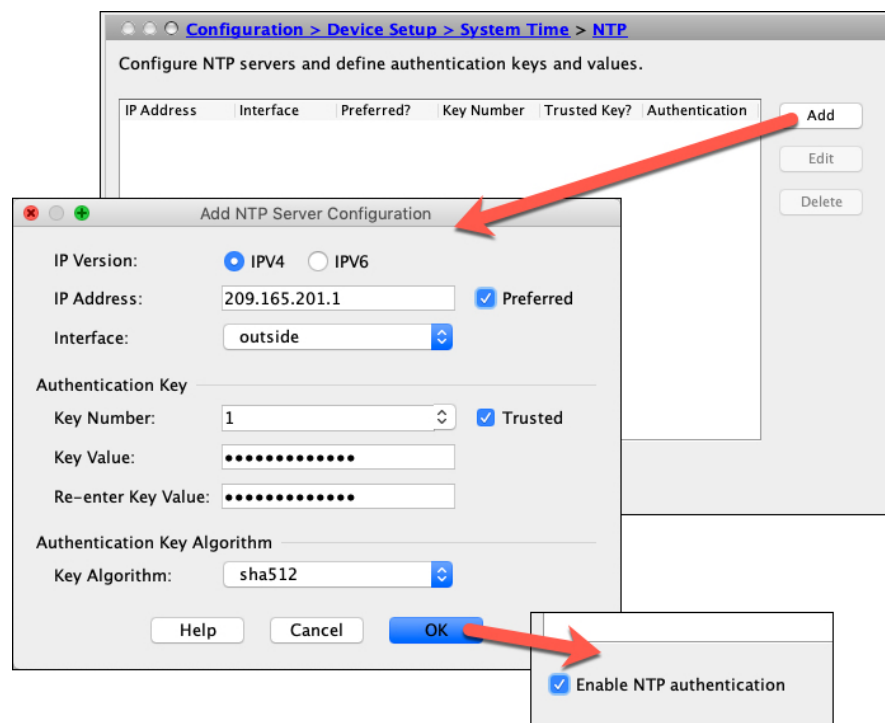
手動で設定した時刻はすべて、NTP サーバから取得された時刻によって上書きされます。

### 始める前に

マルチ コンテキスト モードでは、時刻はシステム コンフィギュレーションに対してだけ設定できます。

### 手順

ステップ1 [Configuration] > [Device Setup] > [System Time] > [NTP] を選択します。



**ステップ 2** [Add] をクリックして、[Add NTP Server Configuration] ダイアログボックスを表示します。

**ステップ 3** NTP サーバの **IPv4 IP アドレス** を入力します。

サーバのホスト名を入力することはできません。ASA は、NTP サーバの DNS ルックアップをサポートしていません。

**ステップ 4** (任意) [Preferred] チェックボックスをオンにして、このサーバを優先サーバに設定します。

NTP では、どのサーバの精度が最も高いかを判断するためのアルゴリズムを使用し、そのサーバに同期します。精度が同じ程度であれば、優先サーバを使用します。ただし、優先サーバよりも精度が大幅に高いサーバがある場合、ASA は精度の高いそのサーバを使用します。

**ステップ 5** (任意) ドロップダウンリストから [Interface] を選択します。

この設定では、NTP パケットの発信インターフェイスが指定されます。インターフェイスが空白の場合、ASA が使用するデフォルトの管理コンテキストインターフェイスは、管理ルーティングテーブルによって決まります。

**ステップ 6** (任意) NTP 認証を設定します。

a) 1～4294967295 の間の **キー番号** を入力するか、または、再利用する別の NTP サーバのキーを以前に作成している場合は、ドロップダウンリストから既存のキー番号を選択します。

この設定では、この認証キーのキー ID を指定します。これにより、MD5 認証を使用して NTP サーバと通信できます。NTP サーバのパケットも、常にこのキー ID を使用する必要があります。

b) [Trusted] チェックボックスをオンにします。

- c) キー値を入力します。これは、最大 32 文字の文字列です。その後、キー値を再入力します。
- d) [OK] をクリックします。

**ステップ 7** [Enable NTP authentication] チェックボックスをオンにして、NTP 認証を有効にします。

**ステップ 8** [Apply] をクリックして変更内容を保存します。

---

## 手動での日時の設定

日付と時刻を手動で設定するには、次の手順を実行します。

### 始める前に

マルチ コンテキスト モードでは、時刻はシステム コンフィギュレーションに対してだけ設定できます。

### 手順

---

**ステップ 1** [Configuration] > [Device Setup] > [System Time] > [Clock] を選択します。

**ステップ 2** ドロップダウンリストからタイムゾーンを選択します。この設定では、適切な時差を GMT に加えた（または GMT から差し引いた）タイムゾーンを指定します。[Eastern Time]、[Central Time]、[Mountain Time]、または [Pacific Time] ゾーンを選択すると、3 月の第 2 日曜日の午前 2 時から 11 月の第 1 日曜日の午前 2 時間での時間が自動的に夏時間に調整されます。

(注) ASA の時間帯を変更すると、インテリジェント SSM との接続がドロップされる場合があります。

**ステップ 3** [Date] ドロップダウンリストをクリックしてカレンダーを表示します。続いて、次の方法を使用して正しい日付を検索します。

- 月の名前をクリックし、月のリストを表示し、次に目的の月をクリックします。カレンダーがその月に変わります。
- 年をクリックして年を変更します。上矢印と下矢印を使用して複数年をスクロールすることも、入力フィールドに年を入力することもできます。
- 年月の左右にある矢印をクリックすると、カレンダーが一度に 1 か月ずつ前後にスクロールします。
- カレンダーの日にちをクリックして日を設定します。

**ステップ 4** 時刻（時間、分、および秒）を手動で入力します。

**ステップ 5** [Update Display Time] をクリックして、ASDM ペインの右下に表示される時刻を更新します。現在時刻は 10 秒ごとに自動更新されます。

## マスターパスフレーズの設定

マスターパスフレーズを利用すると、プレーンテキストのパスワードが安全に、暗号化形式で保存され、1つのキーを使用してすべてのパスワードを一様に暗号化またはマスキングできるようになります。このようにしても、機能は一切変更されません。マスターパスフレーズを使用する機能としては、次のものがあります。

- OSPF
- EIGRP
- VPN ロード バランシング
- VPN (リモート アクセスおよびサイトツーサイト)
- フェールオーバー
- AAA サーバ
- Logging
- 共有ライセンス

## マスターパスフレーズの追加または変更

マスターパスフレーズを追加または変更するには、次の手順を実行します。

### 始める前に

- この手順を実行できるのは、コンソール、SSH、HTTPS 経由の ASDM などによるセキュアセッションにおいてのみです。
- フェールオーバーがイネーブルであっても、フェールオーバー共有キーが設定されていない場合に、マスターパスフレーズを変更すると、エラーメッセージが表示されます。このメッセージには、マスターパスフレーズの変更がプレーンテキストとして送信されないよう、フェールオーバー共有キーを入力する必要があることが示されます。

[Configuration] > [Device Management] > [High Availability] > [Failover] の順に選択し、[Shared Key] フィールドに任意の文字を入力するか、またはフェールオーバー 16 進キーを選択している場合はバックスペースを除く 32 の 16 進数 (0-9A-Fa-f) を入力します。次に、[Apply] をクリックします。

- アクティブ/スタンバイ フェールオーバーでパスワードの暗号化を有効化または変更すると、**write standby** が実行されます。これは、アクティブな構成をスタンバイユニットに複製します。この複製が行われない場合、スタンバイユニットの暗号化されたパスワードは、同じパスフレーズを使用している場合でも異なるものになります。構成を複製することで、構成が同じであることが保証されます。アクティブ/アクティブ フェールオーバーの場合は、手動で **write standby** を入力する必要があります。**write standby** は、アクティブ/アクティブ モードでトラフィックの中断を引き起こす場合があります。これは、新し

い構成が同期される前に、セカンダリ ユニットで構成が消去されるためです。 **failover active group 1** および **failover active group 2** コマンドを使用してプライマリ ASA ですべてのコンテキストをアクティブにし、 **write standby** を入力してから、 **no failover active group 2** コマンドを使用してセカンダリ ユニットにグループ 2 コンテキストを復元する必要があります。

## 手順

**ステップ 1** 次のいずれかのオプションを選択します。

- シングル コンテキスト モードで、[Configuration] > [Device Management] > [Advanced] > [Master Passphrase] を選択します。
- マルチ コンテキスト モードで、[Configuration] > [Device Management] > [Device Administration] > [Master Passphrase] を選択します。

**ステップ 2** [Advanced Encryption Standard (AES) password encryption] チェックボックスをオンにします。

有効なマスター パスフレーズがない場合は、[Apply] をクリックすると警告メッセージが表示されます。[OK] または [Cancel] をクリックして続行できます。

後からパスワードの暗号化をディセーブルにすると、暗号化された既存のパスワードはいずれも変更されず、マスターパスフレーズが存在する限り、暗号化されたパスワードはアプリケーションによって必要に応じて復号化されます。

**ステップ 3** [Change the encryption master passphrase] チェックボックスをオンにして、新しいマスター パスフレーズを入力および確認できるようにします。デフォルトでは、これらはディセーブルです。

新しいマスター パスフレーズの長さは 8 ~ 128 文字にする必要があります。

既存のパスフレーズを変更する場合は、新しいパスフレーズを入力する前に、古いパスフレーズを入力する必要があります。

マスター パスフレーズを削除するには [New] および [Confirm master passphrase] フィールドを空白のままにします。

**ステップ 4** [Apply] をクリックします。

## マスター パスフレーズの無効化

マスター パスフレーズをディセーブルにすると、暗号化されたパスワードがプレーン テキストパスワードに戻ります。暗号化されたパスワードをサポートしていない以前のソフトウェアバージョンにダウングレードする場合は、パスフレーズを削除しておくとも便利です。

### 始める前に

- ディセーブルにする現在のマスター パスフレーズがわかっていなければなりません。
- この手順が機能するのは、HTTPS を介した Telnet、SSH、または ASDM によるセキュアセッションだけです。

マスター パスフレーズをディセーブルにするには、次の手順を実行します。

### 手順

---

**ステップ 1** 次のいずれかのオプションを選択します。

- シングル コンテキスト モードで、[Configuration] > [Device Management] > [Advanced] > [Master Passphrase] を選択します。
- マルチ コンテキスト モードで、[Configuration] > [Device Management] > [Device Administration] > [Master Passphrase] を選択します。

**ステップ 2** [Advanced Encryption Standard (AES) password encryption] チェックボックスをオンにします。

有効なマスターパスフレーズがない場合は、[Apply] をクリックすると警告文が表示されます。  
[OK] または [Cancel] をクリックして続行します。

**ステップ 3** [Change the encryption master passphrase] チェックボックスをオンにします。

**ステップ 4** [Old master passphrase] フィールドに、古いマスターパスフレーズを入力します。ディセーブルにする古いマスターパスフレーズを指定する必要があります。

**ステップ 5** [Newmaster master passphrase] フィールドと [Confirm master passphrase] フィールドを空白のままにします。

**ステップ 6** [Apply] をクリックします。

---

## DNS サーバの設定

DNS サーバを設定して、ASA がホスト名を IP アドレスに解決できるようにする必要があります。また、アクセスルールに完全修飾ドメイン名 (FQDN) ネットワークオブジェクトを使用するように、DNS サーバを設定する必要があります。

一部の ASA 機能では、ドメイン名で外部サーバにアクセスするために DNS サーバを使用する必要があります。たとえば、ボットネットトラフィックフィルタ機能では、ダイナミックデータベースサーバにアクセスして、スタティックデータベースのエントリを解決するために DNS サーバが必要です。他の機能 (ping コマンドや traceroute コマンドなど) では、ping や traceroute を実行する名前を入力できるため、ASA は DNS サーバと通信することで名前を解決できます。名前は、多くの SSL VPN コマンドおよび certificate コマンドでもサポートされます。





(注) ASA では、機能に応じて DNS サーバの使用が限定的にサポートされます。

### 始める前に

DNS ドメインルックアップをイネーブルにするすべてのインターフェイスに対して適切なルーティングおよびアクセスルールを設定し、DNS サーバに到達できるようにしてください。

### 手順

**ステップ 1** [Configuration] > [Device Management] > [DNS] > [DNS Client] の順に選択します。

**ステップ 2** [DNS Setup] 領域で、次のいずれかのオプションを選択します。

- **Configure one DNS server group** : このオプションは DefaultDNS グループにサーバを定義します。
- **Configure multiple DNS server groups** : このオプションでも、DefaultDNS グループは設定する必要があります。FQDN ネットワーク オブジェクトの名前解決に使用されるのは DefaultDNS グループのみです。DefaultDNS はアクティブグループのままにします。ただし、リモート アクセス SSL VPN グループ ポリシーで使用する追加のグループを作成することもできます。DefaultDNS グループのみを設定したとしても、グループで使用するタイムアウトやその他の特性を変更する場合は、このオプションを選択する必要があります。

**ステップ 3** [Configure one DNS server group] を選択した場合は、DefaultDNS グループにサーバを設定します。

- a) [Primary DNS Server] に、可能な限り使用する必要がある DNS サーバの IP アドレスを入力します。必要に応じて、このサーバと各セカンダリサーバに対し、ASA がサーバとの接続に使用する *interface\_name* を指定します。インターフェイスを指定しなかった場合、ASA はデータルーティングテーブルを確認し、一致するものが見つからなければ、管理専用ルーティングテーブルを確認します。

- b) [Add] をクリックして、セカンダリ DNS サーバを追加します。

最大 6 個の DNS サーバを追加できます。ASA では、応答を受信するまで各 DNS サーバを順に試します。[Move Up]/[Move Down] ボタンを使用して、サーバを優先度の順に並べます。

- c) ホスト名に追加する DNS ドメイン名を入力します（完全修飾されていない場合）。

**ステップ 4** [Configure multiple DNS server groups] を選択した場合は、サーバグループのプロパティを定義します。

- a) [Add] をクリックして新しいグループを作成するか、グループを選択して [Edit] をクリックします。

DefaultDNS グループは常にリストに表示されます。

- b) グループプロパティを設定します。

- [Server IP Address to Add]、[Source Interface] : DNS サーバの IP アドレスを入力し、[Add>>]をクリックします。各サーバについて、必要に応じて ASA がサーバとの通信に使用する *interface\_name* を指定します。インターフェイスを指定しない場合、ASA は管理専用のルーティングテーブルをチェックします。ここで一致が見つからない場合はデータのルーティングテーブルをチェックします。

最大 6 個の DNS サーバを追加できます。ASA では、応答を受信するまで各 DNS サーバを順に試します。[Move Up]/[Move Down] ボタンを使用して、サーバを優先度の順に並べます。

- [Timeout] : 次の DNS サーバを試行する前に待機する秒数 (1 ~ 30)。デフォルト値は 2 秒です。ASA がサーバのリストを再試行するたびに、このタイムアウトは倍増します。
- [Retries] : ASA が応答を受信しないときに、DNS サーバのリストを再試行する回数 (0 ~ 10)。
- [Expire Entry Timer] (DefaultDNS またはアクティブグループのみ) : DNS エントリの期限が切れた (TTL が経過した) 後、そのエントリが DNS ルックアップテーブルから削除されるまでの分数。エントリを削除するとテーブルの再コンパイルが必要になります。このため、頻繁に削除するとデバイスの処理負荷が大きくなる可能性があります。DNS エントリによっては TTL が極端に短い (3 秒程度) 場合があるため、この設定を使用して TTL を実質的に延長できます。デフォルトは 1 分です (つまり、TTL が経過してから 1 分後にエントリが削除されます)。指定できる範囲は 1 ~ 65535 分です。このオプションは、FQDN ネットワークオブジェクトの解決時のみ使用されます。
- [Poll Timer] (DefaultDNS またはアクティブグループのみ) : FQDN ネットワーク/ホストオブジェクトを IP アドレスに解決するために使用されるポーリングサイクルの時間 (分単位)。FQDN オブジェクトはファイアウォールポリシーで使用される場合にのみ解決されます。タイマーによって解決間隔の最大時間が決まります。IP アドレス解決に対して更新するタイミングの決定には DNS エントリの存続可能時間 (TTL) 値も使用されるため、個々の FQDN がポーリングサイクルよりも頻繁に解決される場合があります。デフォルトは 240 (4 時間) です。指定できる範囲は 1 ~ 65535 分です。
- [Domain Name] : ホスト名に追加するドメイン名 (完全修飾されていない場合)。

- c) [OK] をクリックします。
- d) 複数のグループがある場合は、DNS 要求に使用するグループを選択して [Set Active] をクリックすれば変更できます。

**ステップ 5** DNS ルックアップが少なくとも 1 つのインターフェイスでイネーブルになっていることを確認します。DNS サーバグループの表の下にある [DNS lookup] インターフェイスリストで、[DNS Enabled] カラムをクリックして [True] を選択し、インターフェイスでのルックアップを有効化します。

インターフェイスで DNS ルックアップを有効にしないと、DNS サーバの [Source Interface] またはルーティングテーブルを使用して検出したインターフェイスを使用できません。

**ステップ6** （任意）クエリーごとに1つのDNS応答を強制するには、[Enable DNS Guard on all interfaces] チェックボックスをオンにします。

DNS インспекションを設定するときに、DNS ガードも設定できます。特定のインターフェイスでは、DNS インспекションで設定されている DNS ガードの設定がこのグローバル設定より優先されます。デフォルトでは、DNS インспекションはDNS ガードがイネーブルになっているすべてのインターフェイスでイネーブルになっています。

**ステップ7** [Apply] をクリックして変更内容を保存します。

## ハードウェアバイパスおよびデュアル電源（Cisco ISA 3000）の設定

ハードウェアバイパスを有効化して、停電時にもインターフェイスペア間のトラフィックのフローを継続することができます。サポートされているインターフェイスペアは、銅線 GigabitEthernet 1/1 と 1/2 および GigabitEthernet 1/3 と 1/4 です。ハードウェアバイパスがアクティブな場合はファイアウォール機能が設定されていません。したがって、トラフィックの通過を許可しているリスクをご自身が理解していることを確認してください。次のハードウェアバイパスのガイドラインを参照してください。

- この機能は、Cisco ISA 3000 アプライアンスのみで使用できます。
- 光ファイバーサネット モデルがある場合は、銅線イーサネット ペア（GigabitEthernet 1/1 および 1/2）のみがハードウェアバイパスをサポートします。
- ISA 3000 への電源が切断され、ハードウェアバイパス モードに移行すると、通信できるのはサポートされているインターフェイスペアだけになります。つまり、デフォルトの設定を使用している場合、inside1 と inside2 間および outside1 と outside2 間は通信できなくなります。これらのインターフェイス間の既存の接続がすべて失われます。
- シスコでは、TCPシーケンスのランダム化を無効にすることを推奨しています（下記の手順を参照）。ランダム化が有効化されている場合（デフォルト）、ハードウェアバイパスを有効化するときにTCPセッションを再確立する必要があります。デフォルトでは、ISA 3000 を通過する TCP 接続の最初のシーケンス番号（ISN）が乱数に書き換えられます。ハードウェアバイパスが有効化されると、ISA 3000 はデータパスに存在しなくなり、シーケンス番号を変換しません。受信するクライアントは予期しないシーケンス番号を受信し、接続をドロップします。TCPシーケンスのランダム化が無効になっていても、スイッチオーバーの際に一時的にダウンしたリンクのために、一部の TCP 接続は再確立される必要があります。
- ハードウェアのバイパス インターフェイスでの Cisco TrustSec の接続は、ハードウェアのバイパスが有効化されているときにはドロップされます。ISA 3000 の電源がオンになり、ハードウェアのバイパスが非アクティブ化されている場合、接続は再ネゴシエートされません。

- ハードウェアバイパスを非アクティブ化し、トラフィックが ISA 3000 のデータパスを経由することを再開した場合、スイッチオーバー時に一時的にダウンしたリンクがあるために、既存の TCP セッションの一部を再確立する必要があります。
- ハードウェアバイパスをアクティブにすると、イーサネット PHY が切断され、ASA はインターフェイスのステータスを判断できなくなります。インターフェイスはダウン状態であるかのように表示されます。

ISA 3000 のデュアル電源では、ASA OS に望ましい構成としてデュアル電源を設定できます。1つの電源に障害が発生すると、ASA はアラームを發します。デフォルトでは、ASA は単一電源を想定していますが、装備される電源のいずれかが機能しているかぎりアラームを發しません。

### 始める前に

- ハードウェアバイパス インターフェイスはスイッチのアクセスポートに接続する必要があります。トランクポートには接続しないでください。

### 手順

**ステップ 1** ハードウェアバイパスを設定するには、**[Configuration] > [Device Management] > [Hardware Bypass]** の順に選択します。

**ステップ 2** **[Enable Bypass during Power Down]** チェックボックスをオンにして、各インターフェイス ペアのハードウェアバイパスを有効化するように設定します。

**ステップ 3** (任意) **[Stay in Bypass after Power Up]** チェックボックスをオンにして、電源が回復してアプリケーションが起動した後にハードウェアバイパスモードの状態に維持されるように、各インターフェイス ペアを設定します。

ハードウェアバイパスを非アクティブ化すると、ASA がフローを引き継ぐため、接続が短時間中断されます。この場合、準備が整った時点でハードウェアバイパスを手動でオフにする必要があります。このオプションを使用すると、短時間の割り込みがいつ発生するかを制御できます。

**ステップ 4** インターフェイス ペアに対しては、**[Bypass Immediately]** チェックボックスをオン/オフして、手動でハードウェアバイパスを有効化または非アクティブ化します。

**ステップ 5** (任意) **[Stay in Bypass Mode until after the ASA Firepower Module Boots Up]** チェックボックスをオンにして、ASA Firepower モジュールの起動後までハードウェアバイパスがアクティブであり続けるように設定します。

ブート遅延が動作するには、**[Stay in Bypass after Power Up]** オプションを使用せずにハードウェアバイパスを有効化する必要があります。このオプションを使用しないと、ASA FirePOWER モジュールが起動を完了する前にハードウェアバイパスが非アクティブになる可能性があります。たとえば、モジュールをフェールクローズに設定していた場合、このような状況では、トラフィックがドロップされる可能性があります。

**ステップ 6** **[Apply]** をクリックします。

**ステップ7** TCPのランダム化を無効化します。この例では、デフォルト設定に設定を追加することによって、すべてのトラフィックのランダム化を無効化する方法を示します。

- a) **[Configuration]** > **[Firewall]** > **[Service Policy]** を選択します。
- b) **sfrclass** ルールを選択して **[Edit]** をクリックします。
- c) **[Rule Actions]** に続いて、**[Connection Settings]** をクリックします。
- d) **[Randomize Sequence Number]** チェック ボックスをオフにします。
- e) **[OK]**、続いて **[Apply]** をクリックします。

**ステップ8** 予期する構成としてデュアル電源を設定するには、**[Configuration]** > **[Device Management]** > **[Power Supply]** の順に選択し、**[Enable Redundant Power Supply]** チェック ボックスをオンにして、**[Apply]** をクリックします。

この画面は利用可能な電源も表示します。

## ASP（高速セキュリティパス）のパフォーマンスと動作の調整

ASPはポリシーおよび設定を利用可能にする実装レイヤです。Cisco Technical Assistance Centerとのトラブルシューティング時以外は直接影響することはありません。ただし、パフォーマンスと信頼性に関連するいくつかの動作を調節することができます。

### ルールエンジンのトランザクションコミットモデルの選択

デフォルトでは、ルールベースのポリシー（アクセスルールなど）を変更した場合、変更はただちに有効になります。ただし、この即時性によりパフォーマンスにわずかな負担がかかります。パフォーマンスコストは、1秒あたりの接続数が多い環境で大量のルールリストがある場合に顕著です。たとえば、ASAが1秒あたり18,000個の接続を処理しながら、25,000個のルールがあるポリシーを変更する場合などです。

ルールエンジンはさらに迅速なルールルックアップを実現するためにルールをコンパイルするため、パフォーマンスに影響します。デフォルトでは、システムは接続試行の評価時にコンパイルされていないルールも検索して、新しいルールが適用されるようにします。ルールがコンパイルされていないため、検索に時間がかかります。

この動作を変更して、ルールエンジンがトランザクションモデルを使用してルールの変更を導入し、新しいルールがコンパイルされて使用可能な状態になるまで古いルールを引き続き使用するようにできます。トランザクションモデルを使用することで、ルールのコンパイル中にパフォーマンスが落ちることはありません。次の表は、その動作の違いを明確にします。

モデル	コンパイル前	コンパイル中	コンパイル後
デフォルト	古いルールに一致します。	新しいルールに一致します (接続数/秒のレートは減少します)。	新しいルールに一致します。
トランザクション	古いルールに一致します。	古いルールに一致します (接続数/秒のレートは影響を受けません)。	新しいルールに一致します。

トランザクションモデルのその他のメリットには、インターフェイス上の ACL を交換するときに、古い ACL を削除して新しいポリシーを適用するまでに時間差がないことがあります。この機能により受け入れ可能な接続が操作中にドロップされる可能性が削減されます。



**ヒント** ルール タイプのトランザクション モデルをイネーブルにする場合、コンパイルの先頭と末尾をマークする Syslog が生成されます。これらの Syslog には 780001 ~ 780004 までの番号が付けられます。

ルール エンジンのトランザクション コミット モデルを有効にするには、次の手順を使用します。

#### 手順

[Configuration] > [Device Management] > [Advanced] > [Rule Engine] の順に選択し、目的のオプションを選択します。

- **Access group** : グローバルにまたはインターフェイスに適用されるアクセスルール。
- **NAT** : ネットワーク アドレス変換ルール。

## ASP ロード バランシングの有効化

ASP のロード バランシング機能によって、次の問題を回避しやすくなります。

- フロー上での突発的なトラフィックの増加によって発生するオーバーラン
- 特定のインターフェイス受信リングをオーバーサブスクライブするバルク フローによるオーバーラン
- 比較的高過負荷のインターフェイス受信リングによるオーバーラン (シングルコアでは負荷を維持できません)

ASP ロードバランシングにより、1つのインターフェイス受信リングから受信したパケットを複数のコアが同時に処理できます。システムがパケットをドロップし、**show cpu** コマンドの出力が 100% を大きく下回る場合、互いに関連のない多数の接続にパケットが属しているのであれば、この機能によってスループットが向上することがあります。

## 手順

- 
- ステップ 1** ASP ロードバランシングの自動切り替えをイネーブルまたはディセーブルにするには、**[Configuration] > [Device Management] > [Advanced] > [ASP Load Balancing]** の順に選択して、**[Dynamically enable or disable ASP load balancing based on traffic monitoring]** チェックボックスをオンにします。
- このオプションは ASA v では使用できません。手動で ASP ロードバランシングをイネーブル/ディセーブルにする必要があります。
- ステップ 2** 手動で ASP ロードバランシングをイネーブルまたはディセーブルにするには、**[Enable ASP load balancing]** チェックボックスをオンまたはオフにします。
- 手動で ASP ロードバランシングをイネーブルにすると、動的オプションをイネーブルにした場合でも、手動でディセーブルにするまではイネーブル状態となります。手動で ASP ロードバランシングをイネーブルにした場合にのみ、ASP ロードバランシングの手動ディセーブル化が適用されます。動的オプションもまたイネーブルにすると、システムは ASP ロードバランシングの自動イネーブル/ディセーブル化に戻ります。
- 

# DNS キャッシュのモニタリング

ASA では、特定のクライアントレス SSL VPN および **certificate** コマンドに送信された外部 DNS クエリーの DNS 情報のローカルキャッシュを提供します。各 DNS 変換要求は、ローカルキャッシュで最初に検索されます。ローカルキャッシュに情報がある場合、結果の IP アドレスが戻されます。ローカルキャッシュで要求を解決できない場合、設定されているさまざまな DNS サーバに DNS クエリーが送信されます。外部 DNS サーバによって要求が解決された場合、結果の IP アドレスが、対応するホスト名とともにローカルキャッシュに格納されます。

DNS キャッシュのモニタリングについては、次のコマンドを参照してください。

- **show dns-hosts**

DNS キャッシュを表示します。これには、DNS サーバからダイナミックに学習したエントリと **name** コマンドを使用して手動で入力された名前および IP アドレスが含まれます。

## 基本設定の履歴

機能名	プラットフォームリリース	説明
ISA 3000 のデュアル電源サポート	9.6(1)	<p>ISA 3000 のデュアル電源では、ASA OS に望ましい構成としてデュアル電源を設定できます。1つの電源に障害が発生すると、ASA はアラームを発します。デフォルトでは、ASA は単一電源を想定していますが、装備される電源のいずれかが機能しているかぎりアラームを発しません。</p> <p>次の画面が導入されました。[<b>Configuration</b>] &gt; [<b>Device Management</b>] &gt; [<b>Power Supply</b>]</p>
ローカルの <b>username</b> および <b>enable</b> パスワードでより長いパスワード (127 文字まで) がサポートされます。	9.6(1)	<p>127 文字までのローカル <b>username</b> および <b>enable</b> パスワードを作成できます (以前の制限は 32 文字でした)。32 文字以上のパスワードを作成すると、PBKDF2 (パスワードベースキー派生関数 2) のハッシュを使用して設定に保存されます。これよりも短いパスワードは引き続き MD5 ベースのハッシュを使用します。</p> <p>次の画面が変更されました。</p> <p>[<b>Configuration</b>] &gt; [<b>Device Setup</b>] &gt; [<b>Device Name/Password</b>] &gt; [<b>Enable Password</b>]</p> <p>[<b>Configuration</b>] &gt; [<b>Device Management</b>] &gt; [<b>Users/AAA</b>] &gt; [<b>User Accounts</b>] &gt; [<b>Add/Edit User Account</b>] &gt; [<b>Identity</b>]</p>
ISA 3000 ハードウェアバイパス	9.4(1225)	<p>ISA 3000 は、トラフィックが電源喪失時にアプライアンスを通過し続けるようにするハードウェアバイパス機能をサポートします。</p> <p>次の画面が導入されました。[<b>Configuration</b>] &gt; [<b>Device Management</b>] &gt; [<b>Hardware Bypass</b>]</p> <p>この機能は、バージョン 9.5(1) では使用できません。</p>
自動 ASP ロードバランシング	9.3(2)	<p>ASP ロードバランシング機能の自動切替を有効または無効に設定できるようになりました。</p> <p>(注) 自動機能は ASA v ではサポートされません。手動による有効化または無効化のみがサポートされます。</p> <p>次の画面が変更されました。[<b>Configuration</b>] &gt; [<b>Device Management</b>] &gt; [<b>Advanced</b>] &gt; [<b>ASP Load Balancing</b>]</p>



機能名	プラットフォームリリース	説明
デフォルトの Telnet パスワードの削除	9.0(2)、 9.1(2)	<p>ASA への管理アクセスのセキュリティ向上のために、Telnet のデフォルト ログインパスワードが削除されました。Telnet を使用してログインする前に、パスワードを手動で設定する必要があります。</p> <p>(注) ログインパスワードが使用されるのは、Telnet ユーザ認証を設定しない場合の Telnet に対してのみです。</p> <p>以前はパスワードをクリアすると、ASA がデフォルト「cisco」を復元していました。今ではパスワードをクリアすると、パスワードは削除されるようになりました。</p> <p>ログインパスワードは、スイッチから ASASM への Telnet セッションでも使用されます (<b>session</b> コマンドを参照)。最初 ASASM のアクセスでは、ログインパスワードを設定するまで、<b>service-module session</b> コマンドを使用します。</p> <p>変更された ASDM 画面はありません。</p>
パスワード暗号化の可視性	8.4(1)	<p><b>show password encryption</b> コマンドが変更されました。</p>
マスターパスフレーズ	8.3(1)	<p>この機能が導入されました。マスターパスフレーズを利用すると、プレーンテキストのパスワードが安全に、暗号化形式で保存され、1つのキーを使用してすべてのパスワードを一様に暗号化またはマスキングできるようになります。このようにしても、機能は一切変更されません。</p> <p>次の画面が導入されました。</p> <p><b>[Configuration] &gt; [Device Management] &gt; [Advanced] &gt; [Master Passphrase]</b>。</p> <p><b>[Configuration] &gt; [Device Management] &gt; [Device Administration] &gt; [Master Passphrase]</b>。</p>

